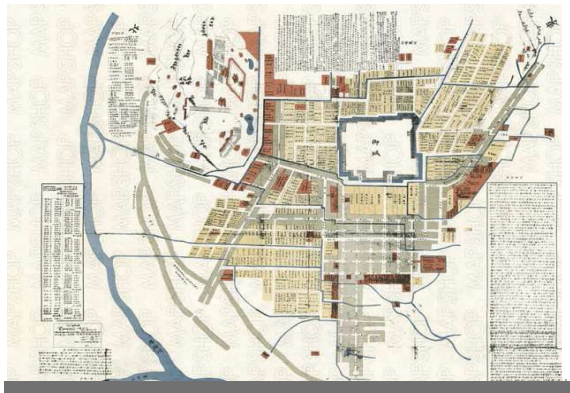


時をさかのぼること大御所時代かつての駿府城は、内堀・中堀・外堀と三重のお堀に守られていました。そして町のすみずみまで水路が流れ、まちの浄化や防火など様々な用途に利用されていました。昔静岡は、【清流の都】と呼ばれていました。しかし戦争や災害・街の都市化により、お堀は壊され埋め立てられ、水路は蓋（暗渠化）をされやがては静岡のまちから消えていきました。最近では、一度見捨てられた公共溝渠や農業用水路などの小規模な水辺に対しても目が向けられるようになりました。他県の自治体では、都市計画や長期構想の中にそれまでの【緑空間】に加え【水空間】を取り上げ、まちづくりの中に【水や水辺】を重要な要素として位置づけるようになってきました。私たちは、これからの静岡のまちづくりには、【水辺空間】が必要だと考えます。大御所の築いた駿府のまちづくりの歴史を辿りながら、現代のお堀と水と人の関係を探求し北街道とともに【水辺空間】の提案をします。

静岡のまちなかを流れる水路

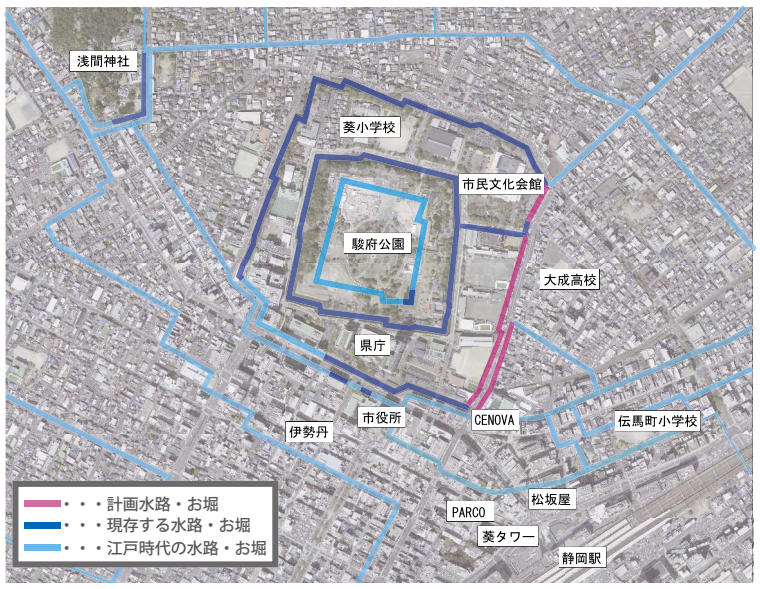
The waterway which was flowing all over the town in Shizuoka

※現存するまちなか用水路

流れが見えなくてもいいんです。大切なのはそこに水路があったということを知ること。どちらからどちらに流れているのかを知ることだけでも大きなことなんです。

■駿府用水と駿府御用水

慶長 10 年 (1605) に将軍職を秀忠へ譲った徳川家康は、慶長 12 年 (1607) に駿府の地に居を定めて城下町の建設に着手しました。この時に、城下町を潤 [うるお] す用水として設けられたのが駿府用水です。駿府城の堀に水を流すために作られましたが、途中で幾筋にも分水して城下町の各地に水路を巡らせ、城下町の生活用水としても用いられていました。生活用水で利用した後は、農業や工業などの用水としても利用され、無駄のない水利用のシステムが構築されていました。この用水は、駿府城を安倍川の洪水から守るため堤防に 3 カ所の堰 [せき](井宮水門・安西水門・一番水門) を設けて城下町に引き入れられました。まず駿府城の堀を満たした上で、武家屋敷と町人の居住地をほぼ等間隔に流れ、流末は農村地帯へと流れていました。用水は、扇状地上の古い河道を整備して作られ、護岸は租石（そいし）積みの石垣で作られていました。用水の管理は、駿河町奉行の配下にある水道方同心により行われました。用水を汚す行為は厳しく禁じられ、生活排水は一度枡（ます）で浄化して用水へと流されていました。清掃や浚渫（しゅんせつ）の必要がある場合は町人に命じて作業させ、常に清潔な状態に保たれていました。このような利水機能だけではなく、晴天の日には用水路を堰き止め水を溢 [あふ] れさせて打水としたり、火事の際には防火用水にも用いられるなど様々な用途に利用されていました。駿府用水ができる以前の駿府は、安倍川ではなく、遠く竜爪山の山麓の鯨ヶ池から用水を引いていました。鯨ヶ池は、安倍川の伏流水が湧き出た池で、ここから樋（とい）を通じて城下まで水を運んでいました。この用水は、駿府用水の完成後も残されて駿府城の堀を潤す専門の用水として用いられ、『御用水』と呼ばれていました。御用水も水道方同心の管理下にありましたが、取水口から堀までの水の管理は、特に厳重に行われていました。



■水の都・静岡

上の図は江戸時代の地図を参考に当時のお堀、 用水路を現在の航空写真に落としたものです。 静岡が水の都と云われていたことが、 お分かり頂けるのではないでしょうか。 まちなかを流れた水は、 この先、 豊田・千代田・大谷地区の農業用水として、 使われていきます。 もしかしたらあなたの家の近くにも流れていたのかもしれません。 時代と共にこうした生活用水はその多くが埋め立てられてしまいましたが、 一部の用水は暗渠として現在も私たちの足元に流れているのです。

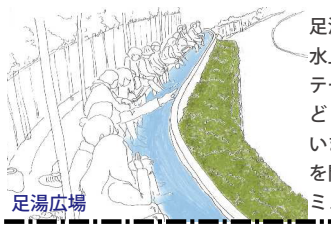
計画概要

Plan outline

水をながす

【提案内容】水辺空間

- お堀
- 親水広場
- 浄化装置
- 用水路開放

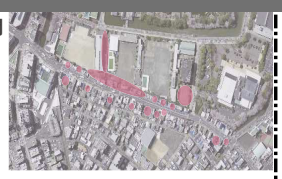


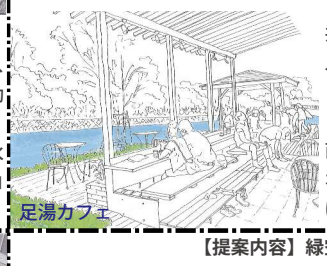
足湯でのご近所さんとのおしゃべりや、水上デッキを利用した野外コンサートステージ、商店街全員で取り組む清掃活動ど・・・。
いままで自分たちの足元を流れていた水を開放することで、水を介した様々なコミュニケーションの場が生まれます。

ひとを集める

【提案内容】賑わい空間

- 親水広場
- 足湯
- オープンカフェ
- 地域のいえ



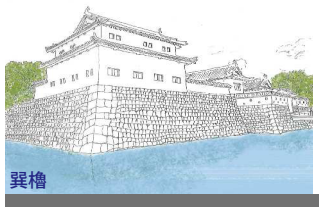


井戸端・川端・水端・・・。
人が集まるところには必ず「端」があります。あえて端をつくってあげることで空間内に人間が滞留し、賑やかな商店街となるのです。足湯を利用したオープンカフェなど、いつまでも居続けたくなるような空間を目指します。

道をとおす

【提案内容】歩行空間

- 歴史小道
- 水辺デッキ
- 舗道のデッキ化
- 浄化装置

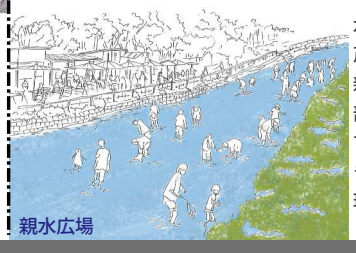


水上デッキ・路地空間・駿府公園間の歴史小道・・・。
商店街の中に縦横無尽に道を通してあげることで、これまで南北に行き来するのみであった人々の行動範囲は一気に広がります。また道は動線だけでなく水辺空間にふさわしい心地の良い風も同時に運んでくれるのです。

緑をそだてる

【提案内容】緑空間

- 歴史小道
- ポケットパーク
- グリーンカーテン
- 浄化装置



水辺での空芯菜の栽培・店先に生い茂るグリーンカーテン・・・。
新しい北街道では常に自分たちと外部との間の中間領域を大切にします。自分たちの商店街は自分たちできれいにしていく。小さなことから環境について考えるきっかけをつくっていきます。

■段階的計画

今回のまちづくり方針については、計画的、段階的に事業を推進することが必要だと考えます。

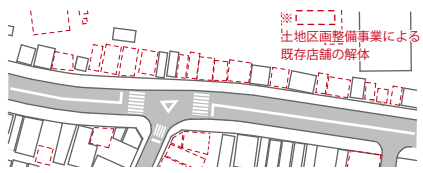
□早急に進めるべきもの

生活環境を向上し、安全、快適なまちづくりを実現するために必要な、生活道路や駐輪場設置による歩道確保など。

□中・長期的な視点で進めるもの

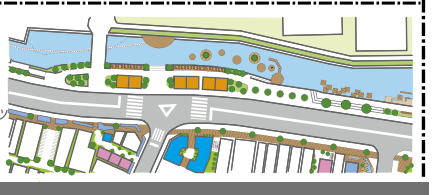
広域的な商店街全体の整備、通り全体で均等に人の賑わい発生を促す拠点づくりなど計画の具体化を検討してきた事業等の実現。
住民参加によるまちづくりのルールや仕組みづくりなどソフト面についても時間をかけてしっかりと段階的につくっていきます。

第Ⅰ期
老朽化やシャッター店舗となっている建物を取り壊し、建替の準備を始める。また、植栽などから、整備を行っていく。



第Ⅱ期
埋め立てとなっていたお堀を掘り起し、川や緑の空間をつくる。また、新設する建物を徐々に整備していく。

将来像
北街道から直接駿府公園に行き来することのできる連絡通路の開通、植栽、デッキ等の歩行空間などの整備を行っていく。



提案内容

The contents of a proposal

■集客力を向上させる店づくり

水辺に魅力ある空間を創出するカフェ計画を行い、来訪者に憩いと潤い、安らぎを与える景観づくりに取組みます。

■緑でつながる地域の和

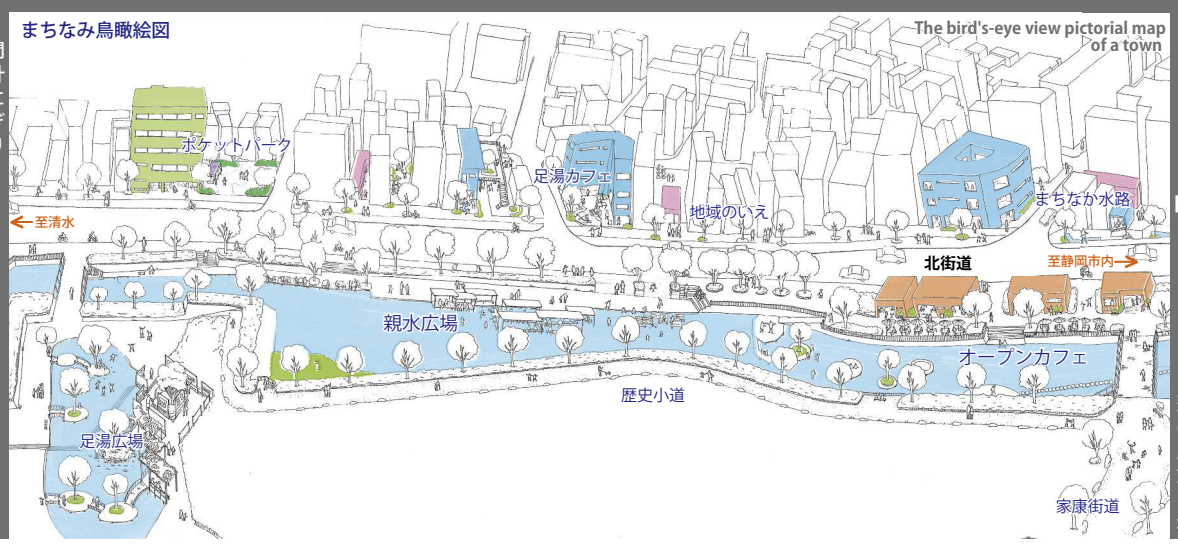
商店街に緑地を設置し、地域環境 の質を高めると共に、人々がつながる魅力ある空間を提案します。

■人をつなげるたまり場づくり

我が家のように安心して集うことのできる場所とし、拠りどころから繋がるコミニティーづくりを行います。

まちなみ鳥瞰絵図

The bird's-eye view pictorial map of a town



■長居したくなる空間づくり

買い物だけで留まらない、癒しを与える居心地の良い空間を提供し、人々を商店街に引き込みます。

■お堀再建に伴う店舗整備

お堀の再建に伴い、再建区域内の店舗の移設、移転と老朽化した店舗の建替えを行います。

■通りと店舗をつなぐ

整備に合わせ商店街の空間統一を行い、店や通行人のまちに対する意識を高め、自発的な整備意欲を増進させます。

■会場風景

■模型全景

■足湯広場

■オープンカフェ

■模型全景

いつか静岡のまちなかに再び清流が流れ、かつての城下町のように水と人々が共に暮らす日を私は常に思い描いているのです。風景はその土地に住む人によってつくられるのです。